

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 ヤマカまなびパーク4F TEL 0572- 23 - 3455 FAX 0572- 26 - 8813

指導日誌より

= 土岐地区 =

駅前で帰宅する高校生に声かけ。寒いせいか足早に帰っていった。あいさつを返してくれる子も多く、うれしかった。(11/1 泉 8)

土岐市あいさつデーの朝、小中学生は皆元気よく、特に大きな声が響きわたりました。(11/2 曾木 5)

駅に小 5~ 6年の女の子がひとりでしたので声をかけると、迎えを待っているところでした。(11/2 泉 9)

バッティングセンターで、不正カードを使用した高校生が通報により補導されたと聞く。今は発生していないとのこと。(11/8 特 A)

暗くなるのが早くなり、店以外では人に会わなくなりました。児童館で「20分くらい前までは子どもたちがいましたが…」と聞きました。(11/15 駄知 6)

寒くなってきたためか、駅前で座り込んだり、たむろしている者は見ませんでした。(11/16 肥田 7)

雨降りのためか、外で遊ぶ子どもたちはほとんどいない。平成公園にいつもいる中高生、有職少年たちもいなかった。(11/19 下石 2)

= 多治見地区 =

お薬師さんの日、道を広がって歩いていた中学生に広がらないで歩くよう注意した。ゴミ拾いの活動をしていた生徒がいたので、褒めてねぎらった。(11/6 笠原 13)

まなびパークで自習している高校生に声をかけ、その後商店街を回ったが街では高校生が少なく寂しい思いが残った。(11/8 南姫 9)

駅北で今年高校を卒業した若者が集まっていた。特に悪さをする様子はなく、話を聞いた。(11/10 特)

今日も小中高生の元気なあいさつが聞こえた。地域があいさつを交わせることができるようになってきていると感じる。(11/15 養正 7)

下校中の女子中学生 2名が立ち止まって休んでいたため、早く帰るよう声をかけた。「ハイ！」と元気に返事があった。(11/15 池田 6)

根本交流センターにキッズバレエの幼児と保護者が 20組ほどいて、あいさつが出来た。パローでは保護者と一緒の小学生に、駅では帰宅の高校生に、声をかけた。(11/16 根本 10)

◆◆◆ 11月 声かけ活動の結果 ◆◆◆

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合 計
指 導 人 数	3	0	0	3
声 かけ 人 数	4 4 1	7 0	2 2 5	7 3 6
指 導 員 参 加 者	6 3	2 9	3 5	1 2 7

校門前にて高学年生下校時の声かけ。皆元気の良
いあいさつが返ってきて、気分が良くなった。児童館
では先に下校した低学年生が、これもまた元気良く
遊んでいた。(11/17 脇之島 12)

スロープになったところで、ヘルメットを着用せず
キックボードをしていた男子小学生がいた。注意をす
ると、「すみません」と素直に聞いてくれた。(11/18
滝呂 8)

部活帰りの多くの子どもたちがいて、元気な返事
が返ってきた。団地内で自転車の二人乗りをしてい
た男子小学生に注意をすると、すぐにしがたってく
れた。(11/26 北栄 1)

= 瑞浪地区 =

バロー裏の道路、街路灯が無く、暗い。始禄(酒屋さ
ん)周辺、土岐橋も同じく、万が一何かあった時が心
配だ。(11/3 瑞浪 B)

10月下旬、バロー裏 19号地下通路の壁にペンキの
落書きを見つけたが、市の素早い対応できれいにな
っていた。雨だったので、瑞浪駅前には迎えの車で大
混雑していた。無料駐車場に長時間駐車してある車
も多いようだ。対応が必要。(11/8 日吉 I)

子どもたちの姿はなく、次第に冷気の増す中、ウォ
ーキングを楽しむ大人達の元気な姿が散見されまし
た。(11/10 稲津 F)

釜戸駅で利用客にあいさつ活動を行い、小学校か
ら中学校へ。国道沿いはゴミが多く、ガラス類もあり
歩行者は注意が必要。(11/16 釜戸 G)

夜、寒くなってきており出歩く人もいません。学校
帰りでバスから降りてきた学生 3人に会い、あいさ
つを交わしたぐらいでした。(11/18 陶 E)

ぼくはいきるときめた

今月 2 日、新聞各紙は福島県から新潟市に
自主避難している小学 4 年の男子児童が、同
級生や担任から名前に「菌」をつけて呼ばれ
ショックで学校を休んでいると報じました。

11 月には、横浜市に避難してきた中学 1
年の男子生徒が、いじめを受けて不登校にな
ったと報道されました。今、フリースクール
に通っているこの中学生は、小学 6 年生だっ
た昨年書いた手記を公表しました。

生徒の代理人弁護士がためらったという手
記の公表は、「いじめがなくなってほしい」
「多くの子どもたちに少しでも励みになれば」
と男子生徒自身が決心したといえます。
手記には次のように書かれていました。

「ばいきんあつかいされて、ほうしゃのう
だとおもっていつもつらかった。福島の人はい
じめられるとおもった。なにもていこうで
きなかった」

「いままでいろんなはなしをしてきたけど
(学校は)しんようしてくれなかった」

「なんかいもせんせいに言(お)うとする
とむしされた」

「いままでなんかいも死のうとおもった。
でもしんさいでいっぱい死んだから つらい
けどぼくはいきるときめた」

この生徒の必死の思いが伝わり、胸が熱く
なります。いじめはいろんなところで広く、
繰り返し行われています。大人も子どもも同
じです。静かで優しい人が狙われます。いじ
める人は相手の気持ちを考えません。そんな
愚かな人と関わるのは時間の無駄です。

新潟の児童も、横浜の生徒のような心境に
なればよいのですが。でも今は無理かもし
れません。いずれにせよ環境を変えるしかあ
りません。被害者が逃げるのは理不尽でくや
しいが、まずは身を守ることが大切です。

< センターから > カラオケ店 中学生は保護者同伴で

土岐地区特 A 班の指導日誌にカラオケ店で聞いた話が報告されていました。ある時、中学生を何人が連
れてきた親が子どもたちを残して帰ろうとしたので、「生徒指導基準」を承知している店の方が、中学生
は保護者同伴とされていることを話し、入店を断ったという話です。その際、その親から「かたいこと言
うな。」と言われたということでした。子どもたちよりも親の方に問題があるようです。

この他にも、深夜営業中の飲食店やカラオケ店に朝 4 時前に来店した少年たちに、店の方が入店させな
かったという話も聞いています。店舗の方でキチット対応していただいているので一先ず安心ですが、そ
れにしてもこうした親の認識は変えてもらわねばなりません。